

2024年度活動概要

リーディング研究会

本研究会は言語処理のプロセスに着目しながら、日本人 EFL 学習者の読解システムについて理解を深めること、そして L2 の読みの諸理論に基づいた効果的なリーディング指導を探求することを目的として活動しています。特に、リーディング処理の自動化、読みの流暢性を主なテーマとして、その観点から L2 読解プロセスの詳細を掘り下げるだけではなく、シャドーイング・音読の流暢性への効果や効率向上のための練習、多読の効果などを含めてリーディング授業の実践面に関わるテーマに関連した研究も重要視しています。

本年度も、輪読と実証・実践研究発表の二本立てを原則として毎月 1 回研究会を開催し、これらの目的達成のために活動してきました。2021 年度より使用している Schwieter & Benati (Eds.) (2019) *The Cambridge Handbook of Language Learning* を使用して輪読を行いました。発表後の議論や意見交換を通して、専門分野に関するお互いの知見を深めることができました。この Handbook には、幅広い SLA トピックに関する 32 ものチャプターが含まれており、4 年間でほとんどのチャプターの輪読を終了することができました。2025 年度からは、新しい輪読本として、Henshaw, G. F. & Hawkins, D. M. (2022) *Common Ground: Second Language Acquisition Theory Goes to the Classroom* と Fernández, E. M. & Cairns, H. S. (Eds.) (2018) *The Handbook of Psycholinguistics* を採用することを決定しました。次年度も引き続き輪読発表を通じた学び合いを継続させていきます。

研究会メンバーやゲスト・スピーカーをお招きした研究発表も輪読に続いて毎回行いました。活発な意見交換を通して、参加者全員にとって新たな研究視点の発見につながったと思います。特に今年度は、CSLAR (関西学院大学 第二言語習得研究センター) との共催で門田修平先生 (関西学院大学名誉教授) ・梶浦真由美先生 (名古屋市立大学) による講演会、峯松信明先生 (東京大学大学院工学系研究科) をご招待した講演会を一般公開の形で開催することができました。また、JACET 国際大会ポスター発表にも参加することができました。

コロナ禍におけるオンラインでの研究会活動の後、2022 年度よりオンラインと対面を両立させた「ハイブリッド型」での活動を実施しております。ハイブリッド型にすることで、場所に影響されず、メンバーの都合に合わせた例会への参加が可能になりました。次年度以降もこの形態を維持しながら活動を続けていきたいと思っております。

また、近年、隣接する学問領域の協業的研究が盛んになったことを踏まえ、既存の専門の枠にとらわれず変化に対応できる柔軟性を持ち、専門性を欠くことなく変化に対応する能力を併せ持つことを目指し、さまざまな広範な視点から学際的な研究を推し進め、今後さらに活動の幅を広げて行きたいと考えております。